

令和 7 年度 少年自然の家事業の評価と課題

1 受け入れ事業

- 今年度の利用実数は、1 月末現在（統計による数字は以下同じ）において、8,109 人であり、昨年度の同時期と比較して約 7% 増加した。(509 人)。

全体の研修者数（延べ人数）は、13,650 人であり、昨年と比較して 733 人増加した。また、受入れ団体数は 256 団体であり、昨年と比較して 5 団体増加している。

今年度の実績を令和 6 年度と比較すると、利用実数、研修者数、団体数ともに微増しているという状況である。

一方で、新型コロナウイルス感染拡大前で影響がほぼなかった年度（令和元年度）と比べると、利用実数は約 4,900 人の減である。また、研修者数は約 8,400 人、受入れ団体数は 80 団体減少している。令和 4 年度以降、団体数はわずかに減っているが、利用実数研修者数ともに増加している状況である。

利用実数	令和 6 年度と比べ 107% の人数 (令和元年度と比べ 62% の人数)
------	---

研修者数（延べ人数）	令和 6 年度と比べ 106% の人数 (令和元年度と比べ 62% の人数)
------------	---

受入れ団体数	令和 6 年度と比べ 102% の団体 (令和元年度と比べ 76% の団体)
--------	---

- 学校種別利用実数について、小学校に関しては宿泊研修の団体数 58 校で、昨年度と比べると 8 校の減少である。また、令和元年度と比べると 4 校の減少であり、小学校に関しては、減少の傾向がうかがえる。その他の学校種では、中学校、大学は減少傾向にあるが、小学生未満（幼稚園・保育所等）、高等学校は増加傾向にある。
- 県内の小学校の当所での宿泊研修利用については、現在、187 校（隠岐教育事務所管内を含む）のうち、58 校の利用がある。(31.0%)

2 主催事業 ※詳細は、各主催事業報告書（資料 3）に記載

- 主催事業については、今年度も
 - ① 子どもたちの「生きる力」を育む
 - ② 家族（親子）の絆を深める
 - ③ ボランティア養成を図る
 - ④ 青少年社会教育施設での野外体験活動機会の充実を図る
 - ⑤ 施設の利用拡大を図る
 という、5 つの視点からなる 13 の事業を計画した。

今年度は、天候の影響により予定を変更したこともあったが、全ての事業を実施することができた。ここでは、①と③について特化して報告する。

- ① 子どもたちの「生きる力」を育むことをねらいに据えた『子ども対象事業』として、「ジュニア・サマー・キャンプ」、「子ども探検隊」、「かわいい子には旅をさせよう」、「ジュニア・ウインター・キャンプ」を設定した。4泊5日の事業「ジュニア・サマー・キャンプ」では5日間を通して様々なことを乗り越えながら仲間との関係性を深めるようにした。4日目の江の川の川下りの活動に向けて、班ごとに班旗を作ったり、いかだを作ったりしていった。また、2日目の朝から4日目までソロ炊飯を行った。初めはうまく火が起きずに時間を要していたが、早くできた子どもが他の子どもにアドバイスし、ともに活動する中でスムーズにできるようになった。こういった活動の流れ（プログラムのデザイン）が徐々に子どもたちの仲間意識を高めていくことにつながっていった。最後の夜のキャンプファイヤーでは仲間との別れを惜しみ涙する姿も見られた。こういった協働の力で成し遂げることができる事業は、これからの時代を強く生きていく力を育むためにも大切にしたい事業である。
- ② ボランティア養成を図ることをねらいに据え、「ボランティアスタッフ養成講座」を設定した。今年度は「相手の気持ちを汲み取ることの大切さ」に重点を置き、プログラム化した。ボランティアについて学んだ後、「キャンドルのつどい」でのレクリエーションゲームを企画した。そして、2日目にはG・G・G（江津・グループワーク・ゲーム）を行う中で、声掛けの大切さなどボランティアスタッフに必要な意思やスキルを学んでいった。本事業の特徴としては、施設ボランティアのイモームズに憧れた子どもたちが本事業に参加し、その後自らイモームズになっていくという流れがある。「将来あんなふうになりたい」という願いをもって自主的に参加する事業は、人材育成という点からも今後大切にしていけるべきであり、当所の特色のある事業の1つである。

3 その他（今年度のトピックス）

- 「開所50周年記念（オープンデー）」の開催
10月26日、開所50周年記念（オープンデー）を開催した。当日はあいにくの天気模様であったが651名の来所者があり、50周年を祝うメモリアルな1日を滞りなく終えることができた。
- 「ピザ窯」の新設
開所50周年に合わせてピザ窯を新設した。作成にあたっては主催事業の参加者にタイルへの名入れやタイル貼りをしてもらい、多くの人の力を結集し、完成させることができた。来年度から活動プログラムの1つとして再スタートする。
- 「冒険の森」アスレチックの新設
冒険の森アスレチックの老朽化・安全確保のため、「大木の危機」の全面改修を行い、より魅力ある施設に生まれ変わった。また、安全面を考慮し「出雲の国のやしろ」の一部改修を行った。

4 今後の課題

(1) 利用促進

学校の現状は教職員の働き方改革、学習時間の確保、保護者への負担軽減などがあり、宿泊を伴う体験学習推進に向けては逆風ともいえる状況である。しかし、その中でも当所を利用したい、または、自然体験活動を進めていきたいという気持ちになるように次のことを進めていく。

- ・ 教育的な価値を確かなものにしていく。(計画段階から振り返りまでの関わり)
- ・ 魅力的なプログラム・新規のアクティビティの開発(就学前の子どもたちへのアプローチ)
- ・ 効果的な広報の工夫(SNSの再考、タイムリーな広報・チラシ等を使った効果的な広報)

(2) 安全管理の徹底

入所者にとってよりよい研修になるためには、安全・安心のもとで、思い切り活動できるよう環境を整えていくことが必要である。動植物(クマ、サル、ハチ、マダニ等)、気象状況(熱中症、落雷)について職員で研修を続け、対策を図るとともに、自然体験活動のプロとして正しく利用者に情報提供を行う。特に熱中症対策、クマ対策について重点を置き、さらなる対応策を検討する。

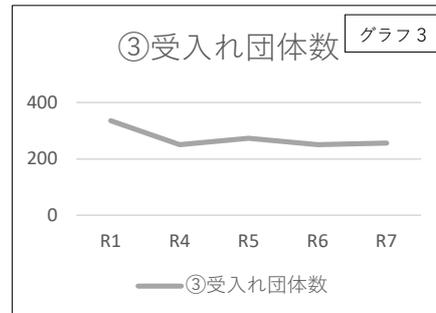
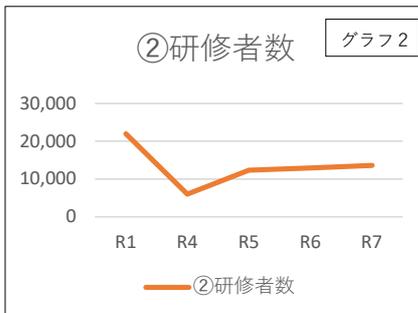
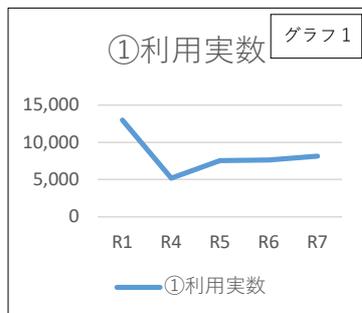
(3) 体験活動の一層の促進

子どもたちの体験活動の不足は加速している。デジタル社会における自然体験活動の意味について改めて考えるとともに、体験活動の効果が大きい就学前の子どもたちへの利用促進を進める。

過去4年間の利用実数・研修者数・受入れ団体数(1月末) ※以降各年度1月末の数字)

表1

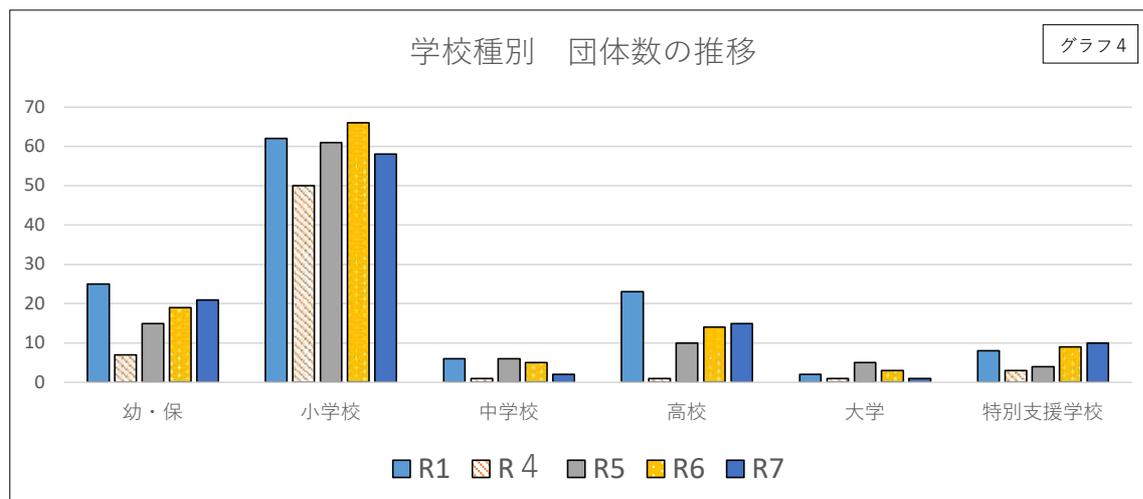
	R1	R4	R5	R6	R7	前年比 (R7/R6)	R1年比 (R6/R1)
①利用実数	12,981	5,187	7,532	7,600	8,109	107%	62%
②研修者数	22,011	5,992	12,353	12,917	13,650	106%	62%
③受入れ団体数	336	251	273	251	256	102%	76%



過去5年間の学校種別団体数(1月末)

表2

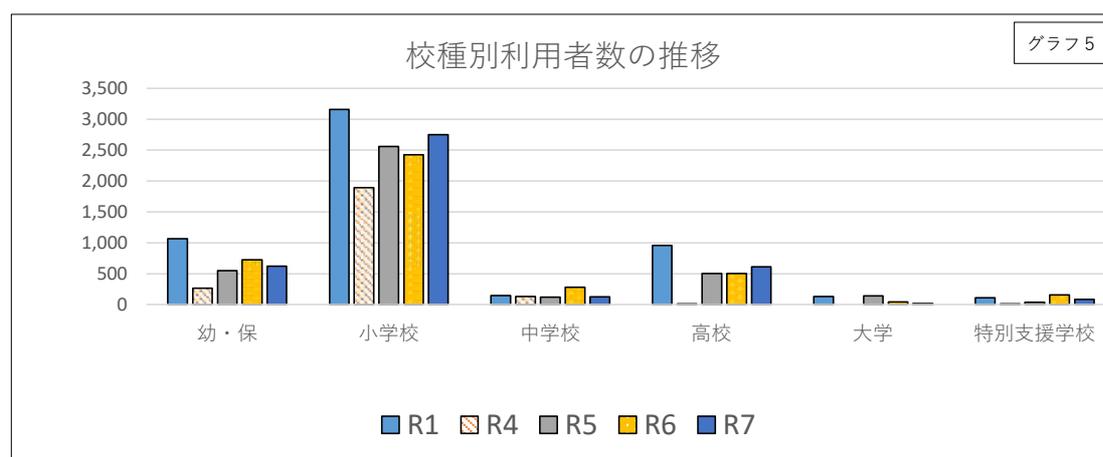
	R1	R4	R5	R6	R7	前年比 (R7/R6)	R1年比 (R7/R1)
幼・保	25	7	15	19	21	111%	84%
小学校	62	50	61	66	58	88%	94%
中学校	6	1	6	5	2	40%	33%
高校	23	1	10	14	15	107%	65%
大学	2	1	5	3	1	33%	50%
特別支援学校	8	3	4	9	10	111%	125%



過去5年間の学校種別利用者数(1月末)

表 3

	R1	R4	R5	R6	R7	前年比 (R7/R6)	R1年比 (R7/R1)
幼・保	1,069	266	547	725	623	86%	58%
小学校	3,154	1,893	2,556	2,423	2,750	113%	87%
中学校	148	130	121	281	129	46%	87%
高校	962	14	504	506	615	122%	64%
大学	133	0	141	43	18	42%	14%
特別支援学校	109	13	42	156	85	54%	78%



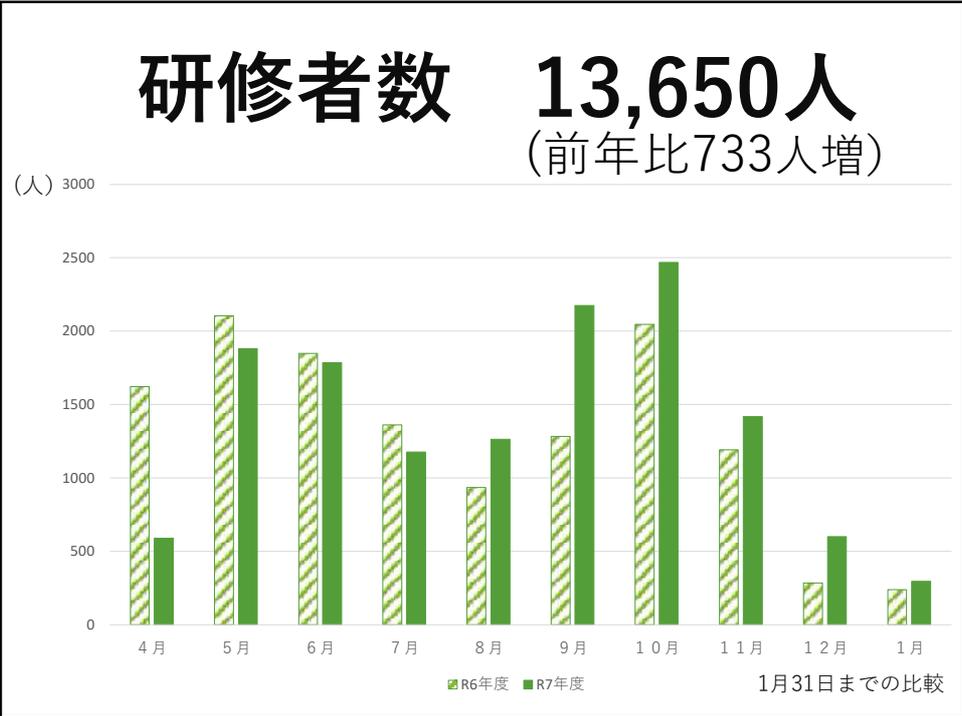


1

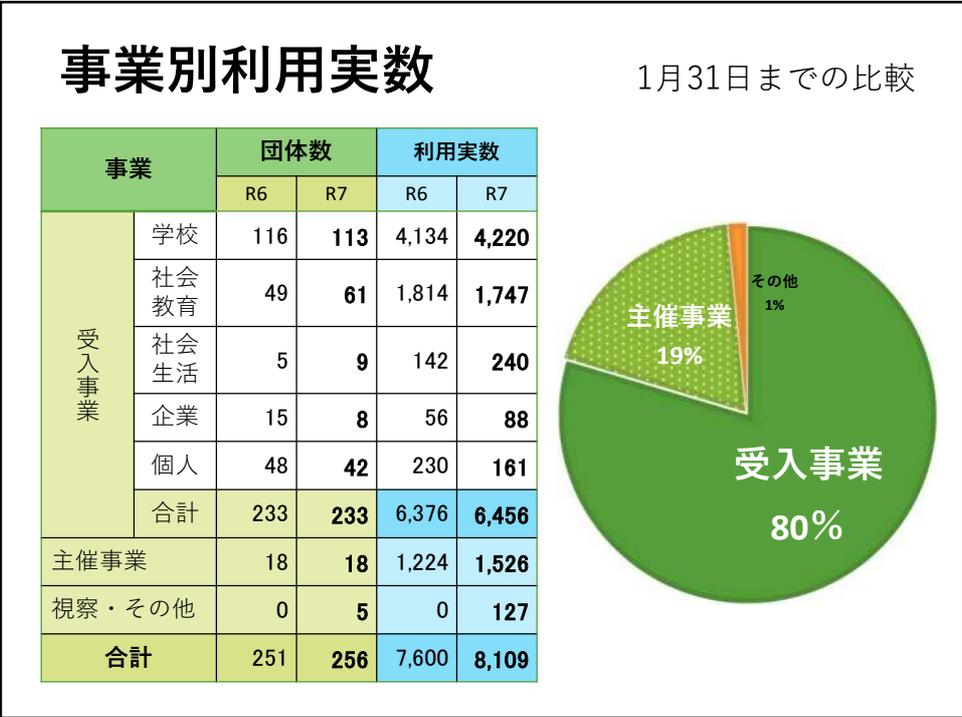
利用状況		1月31日までの比較		
		令和6年度	令和7年度	増減
日帰り実数合計 (a)	(人)	3,147	3,433	286
宿泊実数合計 (b)	(人)	4,453	4,676	223
	〔内 ケビン棟宿泊〕	〔72〕	〔58〕	〔▲14〕
利用実数 (a+b)	「日帰り実数合計+宿泊実数合計」(人)	7,600	8,109	509
宿泊研修者数 (c)	「宿泊実数合計×(泊数+1)」(人)	9,770	10,217	447
研修者数 (a+c)	「日帰り実数合計+宿泊研修者数」(人)	12,917	13,650	733

※受入事業、主催事業、出展活動の合計数

2



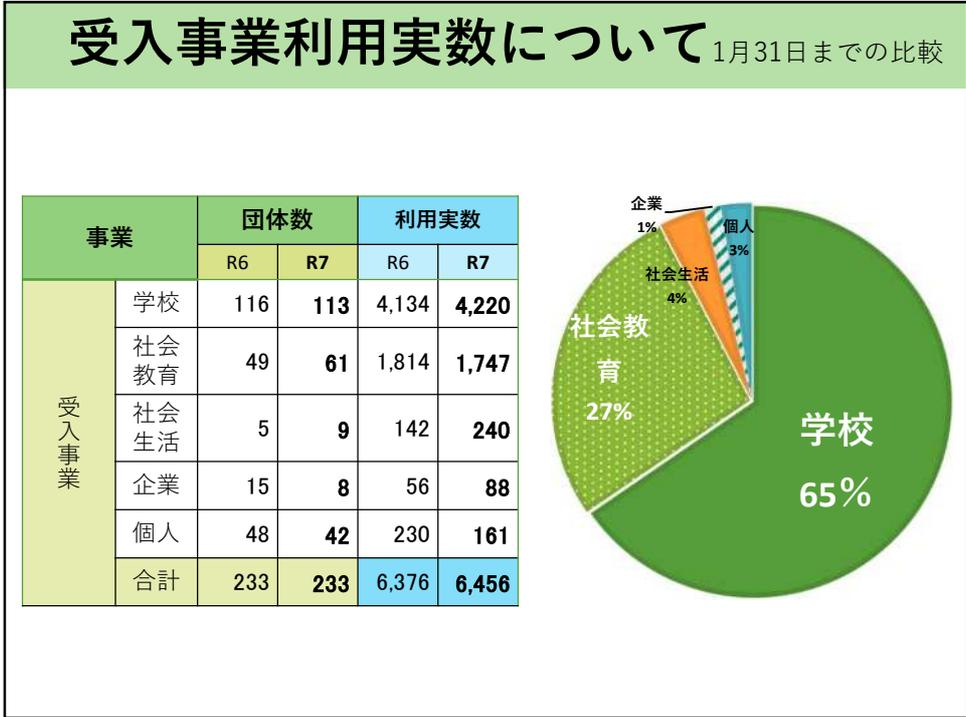
3



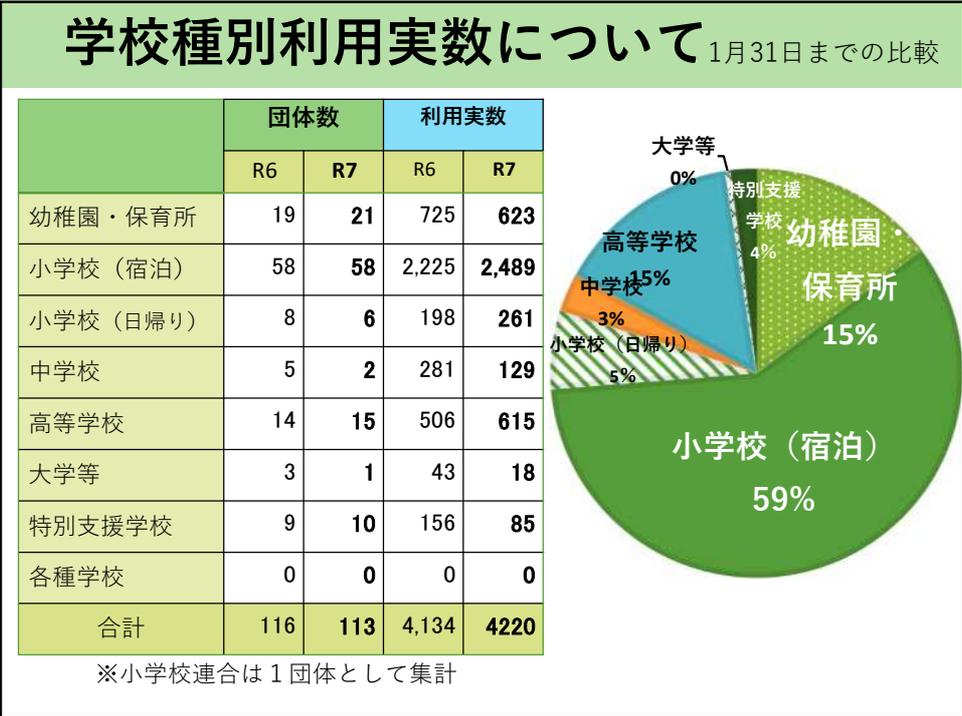
4

Ⅰ 受入事業

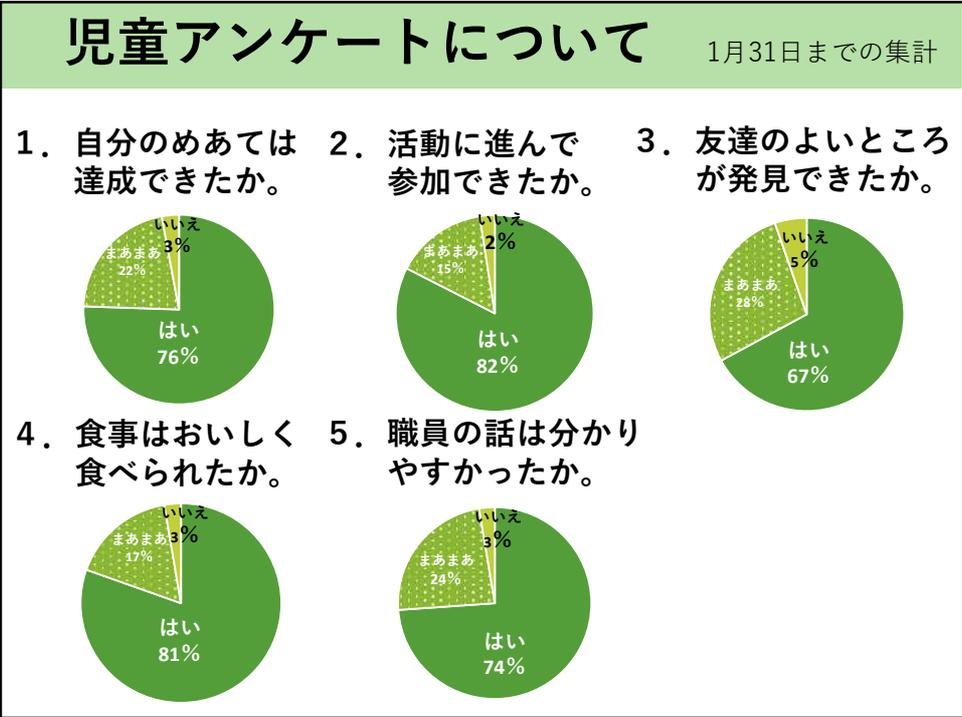
5



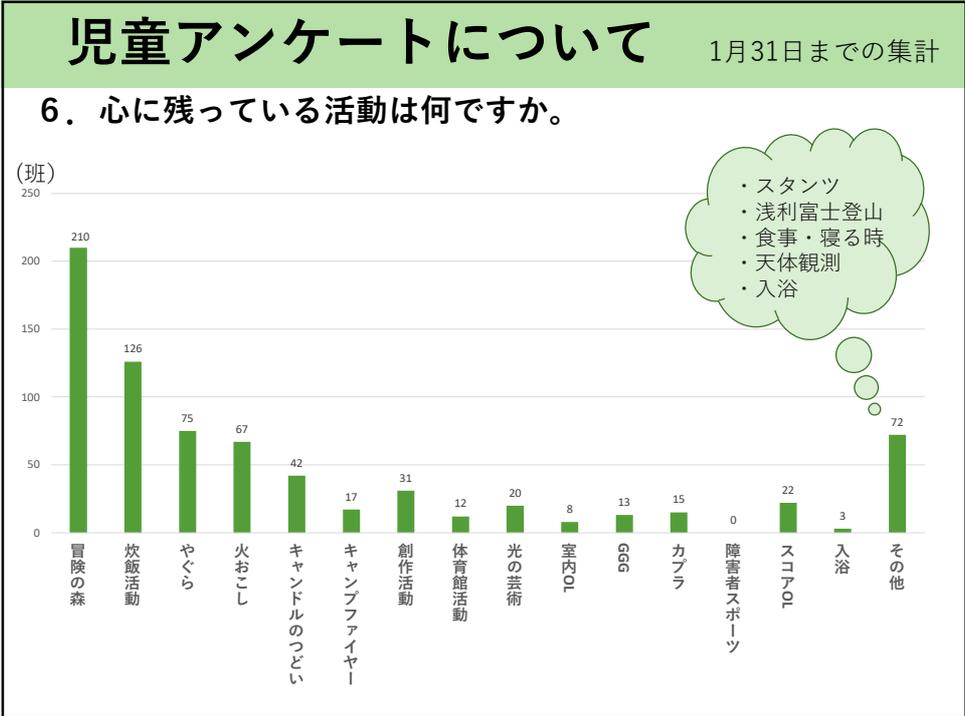
6



7



8

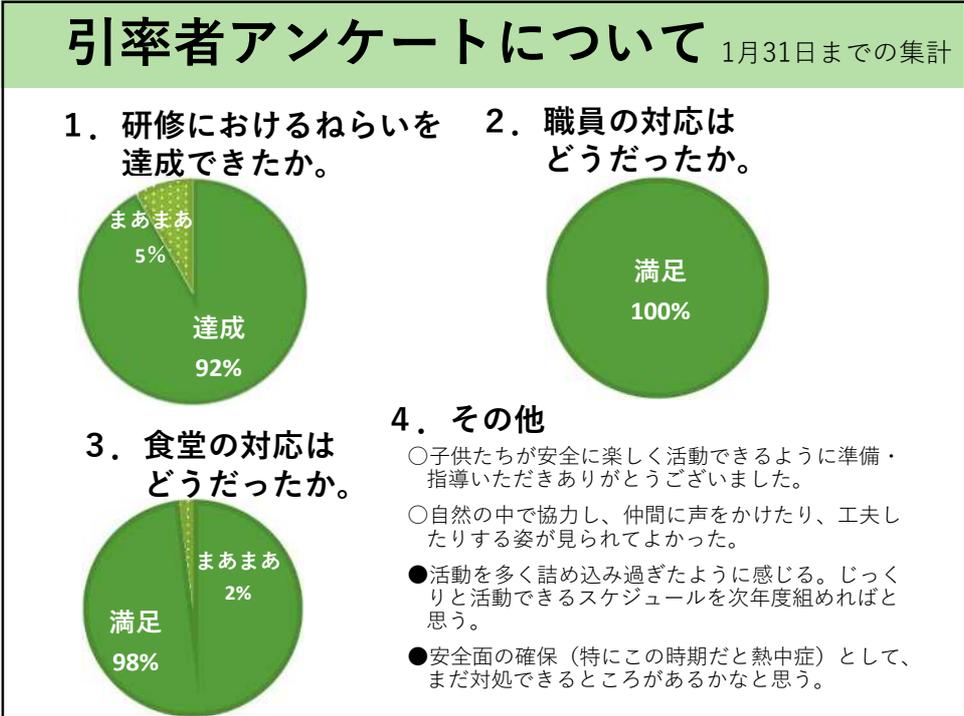


9

児童アンケートについて 1月31日までの集計

- 冒険の森で怖がっている子を助けてあげて良かった。
- 自分の事だけでなく、相手のことも考えて行動できるようになった。
- この研修のおかげでみんなと協力できるようになった。
- 班のメンバー、学年のみんなの良いところを見つけた。
- 炊飯活動が難しく、家の人の大変さがよく分かった。
- 研修で学んだことをこれからの学校生活に生かしたい。
- 今までで一番楽しかった。

10



令和 7 年度島根県立少年自然の家主催事業

「利用団体指導者研修会」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 集団宿泊研修の教育的意義、及び内容・方法について理解する。
- ・ 当所での研修活動を効果的に展開するためのプログラム案を作成する。
- ・ 同時入所団体とプログラムの調整を図ることを通して、プログラムの再検討や、宿泊研修への見直しをもつきっかけにする。

2 事業の概要

〈第1回：前期（4／1～8／31）入所予定の学校担当者対象〉

期 日 4月24日（木） 参加者 22校の各担当者

〈第2回：後期（9／1～3／31）入所予定の学校担当者対象〉

期 日 7月24日（木） 参加者 33校の各担当者

- 〈内容〉
- （1）所長講話「一生に残る体験活動を」
 - （2）活動プログラム紹介
 - （3）施設見学
 - （4）昼食に合わせ、説明「食堂の使い方について」
 - （5）実習「活動プログラム体験」
 - （6）説明「利用の留意点について」
 - （7）団体間調整



3 事業の特色

宿泊研修を予定している学校団体の研修担当者を対象にした事業である。入所期日に合わせて前期・後期に分けて実施した。施設のプログラム紹介、見学、実習などを体験することで、より効果的な研修計画を立ててもらうことを意図した。研修に参加することによって、児童への事前指導のイメージを膨らませたり、引率教員間での情報共有化を高めたりする効果を期待した。

4 成果

前期は、学校も新学期を迎えてあわただしい時期に開催することになるので、担当される先生が何度目の担当であるのかの情報も把握し、その担当歴に合った内容となるよう工夫した。夏休みの開催となる後期の研修会では、1団体から複数参加される学校も7組あり、この研修の意義が浸透しつつあるのを感じている。初めて経験される先生には、細かな疑問点にも応えられるよう、昼食の後や終了後に個別の質問タイムを設け、丁寧な対応を心がけた。参加者からは、「やぐらづくりに参加して、動画を少し見ましたが、みると実際にやるとでは全く違いました。実際にやることができよかったです。」「このときはどうしたらいいのか、ここでこんなことができる、…など、HPや文面だけでは分からないことをとても親切に教えていただいたので、助かりました。また質問します！」などのご意見をいただいた。



「チャレンジ・ザ・サマー」実施報告書

1 ねらい

- 少年自然の家が提供できる活動や振り返りの時間を通して親子の絆を深め、夏の思い出づくりに寄与する。
- 家族相互の交流を深める。



2 事業の概要

- (1) 期 日 7月19日(土)～20日(日) 1泊2日
- (2) 会 場 島根県立少年自然の家
- (3) 対 象 小学生とその保護者
- (4) 参加者 20家族 53名(小学生28名、保護者25名)
- (5) 日 程 <プログラム構成>

1日目 7月19日(土)	2日目 7月20日(日)
9:30～受付 10:00 入所のつどい 10:40 仲良くなるゲーム [5班編成] 12:00 昼食(食堂) 13:00 火おこし体験 [1班で2台] 14:30 自由活動～虫とり、創作活動 体育館活動 16:00 ピザ窯見学～ 土鍋ご飯でおにぎり弁当づくり～ 石臼できな粉づくり体験 18:00 浅利富士登山～肝だめし 20:00～入浴・就寝	6:30 起床 7:40 朝食(食堂) 9:10 冒険の森アスレチック 待ち時間にピザ窯タイルに名入れ 終了後、自由活動～虫取り、創作活動 体育館活動 12:00 昼食(食堂) 13:00 振り返りタイム・グループで感想交流 13:50 退所のつどい 14:00 退所



3 事業の特色

毎年、家族での夏の思い出づくりをテーマにして開催している事業である。今年度は、炊飯場で土鍋を使ってご飯を炊き、おにぎりをつくる活動を取り入れた。さらに、石臼を使って大豆からきな粉をつくる体験も提供した。開所50周年にあたって設置するピザ窯を飾るタイルへの名入れの活動も行った。また、家族の絆をより感じてもらうために、振り返りタイムで親子のメッセージ交換の場面も設定し、ねらいに迫るよう工夫した。

4 成果

にわか雨のため、浅利富士展望台でおにぎり弁当は食べられなかったが、回復後は浅利富士登山と肝だめしを実施できた。二日目は、熱中症指数が上昇したため、冒険の森アスレチックは、短いコースに変更した。年々気温が上昇していることやクマの目撃情報の増加に合わせ、この時期の活動は常に代替え案を考える必要が出てきている。参加者からは、「グループの方にはとてもよくしていただいて、たいへん充実した2日間でした。(親)」「火おこし体験で、くじけそうになりましたが、火がおきた時には、言葉にならないほどうれしかったです。(親)」「冒険の森で『がんばれ』と声をかけてもらってうれしかった。(子)」「きなこがあんなふうにできていることを知りました(子)」「ごはんをたいて、おむすびをつくってとてもおいしかった。(子)」などの感想を寄せていただいた。

「ジュニア・サマー・キャンプ」実施報告書

1 趣旨

日常ではなかなか体験できない活動プログラムを体験することを通して、自然の素晴らしさや厳しさを体感したり、仲間と協力し励まし合いながら困難を乗り越えたりして、たくましく生きる力を育む。

2 事業の概要

- | | | |
|---------|-----------------------|--|
| (1) 期 日 | 令和7年8月20日(水)～8月24日(日) | 4泊5日 |
| (2) 対 象 | 小学校5・6年生 | 24名 |
| (3) 内 容 | 1日目(出会い) | 入所のつどい 仲間づくり 安全学習 目標設定 炊飯活動 |
| | 2日目(森活動) | 基地づくり(テント) ソロ炊飯入門 いかだづくり 炊飯活動 |
| | 3日目(滝活動) | ソロ炊飯で朝食づくり 沢登り 滝ウォータースライダー 笹舟
いかだづくり 炊飯活動 |
| | 4日目(川活動) | ソロ炊飯で朝食づくり 江の川でいかだくんだり 基地解体
BBQ 炊飯 キャンプファイヤー、レクリエーション |
| | 5日目(最終日) | ふりかえり ストーンアートで発表会 |

3 事業の特色

「この夏の挑戦!きっと何かが見つかる 見つける 自然の中で過ごす5日間」をキャッチフレーズに、夏休みに行く長期キャンプである。この事業における「たくましく生きる力」を「①何が大切かを自分で考え判断し、行動する。②自分を大切に、他者を尊重する。③自分の心と体に向き合い、健康に過ごす。感動する心。」と捉え、この事業を通して子どもたちにつけたい力としてスタッフで共有し、事業に臨んだ。今年度は、2泊目～3泊目は「どんぐりの谷」にテントを建てて宿泊し、朝はソロ炊飯、昼は防災食炊飯、夜は班ごとに炊飯活動を行った。3日目、4日目には、江津市の派遣社会教育主事や地域の団体、人材に協力していただき、連携を図った。



4 成果

4日目夜のキャンプファイヤーや最終日の退所のつどいでは、涙ながらに仲間との5日間を振り返ったり、互いに感謝を伝え合ったりしている姿が印象的だった。また、アンケートでは「自分で立てた目標が達成できた」「自分の成長を感じた」と100%の児童が回答し、「仲間と協力し、最後まであきらめずにやり遂げる力がついた。」「自分に自信が持てるようになった。」と振り返っていた。このことから、自然体験活動を通して仲間と共に困難を乗り越えていく経験は、子どもたちにとって大きな価値があったといえる。



「子ども探検隊」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 少年自然の家の教育資源を活用した探検活動を通し、「勇気」と「優しさ」を発揮する。
- ・ 集団生活やグループ活動をすることで、協力するよさを味わう。

2 事業の概要

(1) 開催日 10月11日(土)～12日(日)

対 象 小学3・4年生

(2) 参加者 22名

(3) 内容

- ① アイスブレイク
- ② 冒険の森
- ③ カレーうどん炊飯
- ④ 肝試し
- ⑤ ケビン棟宿泊
- ⑥ ホットサンド作り
- ⑦ スコアオリエンテーリング



3 事業の特色

「勇気と優しさを発揮しよう！」というねらいのもと、2日間の宿泊研修を実施した。3・4年生対象のこの主催事業は、「勇気」と「優しさ」が必要な「探検」(体験活動)を通し、活動後の振り返りを大切にして、自己評価や自分を含めた班の人の行動観察から、それらの意識化を図り、次の活動ではより意識した行動を取っていくように図った。

今年度は少年自然の家の既存のプログラムを活用し、利用が少ないケビン棟での宿泊を取り入れたり、様々な体験を積む中で、ねらいに迫れるように計画した。1日目は、GGG、冒険の森、カレーうどん炊飯、肝試し、ケビン棟宿泊と盛りだくさんの体験をすることができ、充実感を味わえたようである。2日目はホットサンド作りやスコアオリエンテーリングを行った。スコアオリエンテーリングでは、各班にイモームズやスタッフが付くことにより児童の実態に即して、課題解決に向けてチームで話し合ったり、励ましあったりする場面も多く見られた。

4 成果

今回は既存のプログラムを活用して、GGGのねらいの「勇気と優しさを発揮しよう！」と各活動後に振り返りを実施した。振り返りにおいて、「勇気と優しさを発揮できたかどうか」聞いたところ、「勇気」と「優しさ」を発揮できた人が9割という結果だった。自由記述では、「スコアOLでは他の班よりは優しさが絶対に一番発揮できた」「みんなで楽しく仲良くチームプレーした」「自然の空気がおいしかった」「アスレチックがあつて楽しかった」「寝袋投げが本当に楽しかった」「肝試しが、むちゃくちゃ怖かった」「みんなと寝ることが楽しかった」などねらいに迫る回答を含め肯定的な回答が多く、普段あまり体験しない「ケビン棟宿泊」も心に残ったようだ。全体的に盛りだくさんの計画であったが、子どもたちは、各自色々と感じたり、考えたりすることができたと思われる。今回の体験を通して得られた気づきや学びを、今後の生活に活かしてほしい。

「開所50周年記念オープンデー」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 広く県民に施設開放をし、県民にこれまで以上に広く周知するとともに、利用促進を図る。
- ・ 利用団体や所と関連のある団体との結びつきをさらに深化させる。

2 事業の概要

(1) 開催日 10月26日(日) 10:00~16:00

対 象 どなたでも(未成年者は、保護者または成人が同伴)

(2) 来場者 651名

(3) 内容

① 開所50周年記念事業典及び記念植樹

- ・ 記念式典開催 来賓5名、招待者30名参列
- ・ 記念植樹：創作棟前に「けやき」を植樹
- ・ 嘉久志子ども神楽団「恵比寿」公演
- ・ 島根県観光キャラクター「しまねっこ」来演
- ・ 江津市PRキャラクター「人麻呂くんとよさみ姫」来演
- ・ 50周年記念ピザ窯の釜開き
- ・ イモームの缶バッジが当たるガチャ体験

② 少年自然の家が提供した体験等

- ・ どんぐりの谷にプレイパーク開設(施設ボランティア・イモームズが支援)
- ・ 食堂委託業者(ウオクニ株式会社)による、カレーライス等の販売
- ・ 冒険の森アスレチック体験
- ・ 車いすスポーツ体験
- ・ 土鍋ご飯体験

③ 関連団体によるブース出展

- ・ いわみ福祉会～食品、コーヒーの販売
- ・ しまね海洋館アクアス～友情の池の生き物観察会
- ・ 国立三瓶青少年交流の家～ディスゲッターなどの的当てゲーム体験
- ・ 島根県企業局～「企業局」って何だろう?と銘打って業務内容の紹介
- ・ 島根県立青少年の家サン・レイク～レザークラフト体験
- ・ 島根県キャンプ協会～薪割りや焚き火台などのミニキャンプ体験の提供とテントの展示
- ・ 西部社会教育研修センター～親学の一環として「ほめばっちゃん」体験の提供
- ・ 江津市図書館 どんぐりの森で絵本の読み聞かせ 10:45～
- ・ いわみ芸術劇場派遣事業～どんぐりの森での演奏会開催 11:00と14:00の2回



3 事業の特色と成果

開所50周年記念の記念事業であり、開催チラシのほかにポスターも作成して、広く周知した。また前々日には、BSS ラジオの生放送でPRも行った。昨年以上のブースを開設することもでき、当日は多くの方に楽しんでいただくことができた。新たに設置したピザ窯も好評で、今後の新たな活動プログラムの提供につなげることができると考えている。

「エンジョイ・アウトドア」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

自然の中で思い切り体を動かしたり、体験活動プログラムを活用したりすることを通して、子どもたちの積極的態度の醸成や、自己肯定感の向上を図る。

2 事業の概要

(1) 開催日 10月31日(金) 9:50～活動終了後各団体退所

対象 浜田教育事務所管内教育委員会教育支援センター等

児童・生徒及び引率者

(教育支援センターに通っていない児童・生徒も参加可)

参加者 児童・生徒 28名 引率者 25名 計53名

内訳	大田市教育委員会「あすなる教室」	児童1名	生徒7名	引率者4名	計12名
	江津市教育委員会「あおぞら学園」	児童4名	生徒4名	引率者8名	計16名
	浜田市教育委員会「やまびこ学級」	児童4名	生徒4名	引率者9名	計17名
	邑南町教育委員会「たけのこ学級」	児童1名	生徒3名	引率者4名	計8名

内容 ①選択野外炊飯活動 バーベキュー(かまどでご飯炊き)・カレーうどん

②選択活動 ※当日、希望の活動ができるよう柔軟に対応

晴天の場合：冒険の森 スコア0L

雨天の場合：室内0L 体育館活動 カブラ 火おこし

3 事業の特色

「青少年社会教育施設での野外体験(キャンプ・バーベキュー等)活動機会の充実」の一つとしてはじまった、実施4年目の主催事業である。令和7年度は、10月31日に浜田教育事務所管内の教育センターに通う児童・生徒を中心として、複数団体を集めた事業を行った。午前中は野外炊飯活動を体験し、午後には、各団体で選択活動を行った。

また、一昨年度から「年1回の場合だけでなく、各団体の希望により、複数回体験活動ができるようなシステムの構築をめざす。」こととし、「いつでもエンジョイ・アウトドア」という受け入れ事業を設け、対応している。この事業は、対象を「放課後等デイサービス、児童養護施設、児童相談所」に通う子どもたちに広げ、より多くの子どもたちに体験活動の機会を提供できるように努めている。



4 成果

活動後の子どもたちのアンケートには、「協力して美味しいご飯を作ることができて楽しかった。」

「初めて火おこしをして楽しかった。」等、人と関わる喜びや初めての体験に挑戦する喜びが書かれていた。引率者からは、「普段あまり食べない子もたくさん食べていた。」「運動が苦手、野菜が嫌いという子も参加できたことが嬉しいこと。」等、児童・生徒のいきいきと活動する姿から体験の価値を感じている意見があった。また、「数回利用している子は、成長の様子が見られた。」「毎年素敵な体験をさせてもらっている。」との意見もあり、この事業の意義は大きいといえる。



「森と海のつどい」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 ねらい

- ・森の中での自然を生かした体験やアクアスでの水槽前での宿泊体験を通して、森と海を好きになる。
- ・他の家族とのふれあいを通して、協力することの良さや親子の関係を確かめる。

2 事業の概要

- (1) 期 日 11月1日(土)～2日(日) 1泊2日
- (2) 会 場 島根県立少年自然の家、しまね海洋館アクアス
- (3) 共 催 しまね海洋館アクアス
- (4) 対 象 小学校 4・5・6年生とその保護者
- (5) 参加者 19家族 43名(小学生21名、保護者22名)
- (6) 日 程 : <プログラム構成>



1日目 11月1日(土)	2日目 11月2日(日)
9:50 受付	6:20 起床
10:20 入所のつどい 森と海の話・クイズ	6:40 海の宝集め
11:30 昼食(食堂)	7:30 少年自然の家へ移動
12:30 ネイチャーゲーム(どんぐりの谷)	8:00 自然の家着、寝袋干し
14:00 冒険の森+森の宝集め	9:00 森と海の写真立てづくり
17:00 夕食(食堂)	10:30 煮込みうどん(みそ)づくり
17:40 入浴	13:20 振り返りタイム
18:40 アクアスへ移動	13:50 退所のつどい
19:30 アクアスで夜のバックヤードツアー	14:00 退所
21:00 寝袋で就寝	



3 事業の特色

コロナウイルス感染予防のため中断していたアクアスでの水槽前就寝を令和元年度から6年ぶりに復活させた。その間にスタッフの異動もあり、ノウハウを忘れていた部分もあったので、アクアスでの活動支援の仕方を再確認することや円滑な物品運搬することなどをスタッフ側のねらいの一つとして実施した。アクアスでは、普段見ることのないバックヤードを見て回るツアーや水槽前での寝袋を使った就寝といった非日常の体験ができるということもあり、定員の2倍以上の応募者があった。森と海をより意識してもらうために、クイズに答えてもらったり、どんぐりを貯蔵するリスの気分になるネイチャーゲームを体験してもらったりした。アクアス前の海岸での貝殻拾いなども取り入れた。そして、創作活動は、森や海で見つけた宝物を使った写真立てづくりを行った。同じ班になった他の家族とのふれあいを大切にもらうために、アイスブレイクを兼ねたクイズから、ネイチャーゲーム、2日目の煮込みうどんづくりに至るまで、班での活動を並べた。

4 成果

家族同士がグループで取り組む活動を多く取り入れたことで、プログラムが進むにつれて、協力するという意識が高まっていくのを感じた。「子どもがほかの子どもと知り合い、仲良くなる様子を久しぶりに見ました。」という感想が多く見られた。コロナ感染や暑い夏休みなどの影響で、子どもたち同士の接触が少なくなってきたのを感じた。夜のアクアスを体験するプログラムの流れを両施設のスタッフが経験できたことは、有意義であった。今後、アクアスの職員との意見交換を重ねるなかで、それぞれの施設の特色をさらに生かした事業にしていくことができると思われる。



「ジュニア・ウインター・キャンプ」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・今年1年間の締めくくりとして正月に関わる行事・遊び・食に触れて体験することにより、来年の新たなスタートのきっかけとする。
- ・来年に向かって前向きな態度や気持ちを育てる。

2 事業の概要

- (1) 期 日 12月26日(金)～27日(土) 1泊2日
- (2) 会 場 島根県立少年自然の家
- (3) 対 象 小学校5・6年生 20名(募集は24名)
- (4) 日 程

1日目 12月26日(金)	2日目 12月27日(土)
9:20 ～ 受付	6:30 起床
9:50 入所のつどい	7:00 朝のつどい
10:30 仲良くなるゲーム	7:40 朝食(食堂)
11:40 連絡・荷物移動等	9:00 餅作り・餅つき・雑煮作り
12:00 昼食(食堂)	11:30 雑煮会食(1・2研)
13:00 けん玉・コマ回し・めんこ	12:30 振り返り
14:00 凧作り・凧揚げ・福笑い	14:00 退所のつどい
16:40 カレーうどん作り	14:30 退所
19:00 星天観察	
19:55 明日の打合せ&振り返り	
20:40 入浴・自由交流	
21:50 就寝(宿泊棟泊)	



3 事業の特色

・正月に関わる行事・遊び・食に触れる、実際にはなかなか体験できない活動を行って、正月について考える機会とした。一日目の終わり、二日目に、それぞれ振り返りの時間を確保し、2日間の体験で「頑張ったこと・できたこと」「学んだこと・気付いたこと」「次に生かしたいこと」などを自分で気づけるようにした。また、正月に関わる「けん玉・めんこ・コマ回し」「凧作り・凧揚げ」「ネイチャー福笑い」「人間福笑い」「餅作り・餅つき・雑煮作り」などの既存のプログラムでない活動を実施した。地元(江津市)で「けん玉」の普及に取り組んでおられる講師の発掘にも努めたが、今回は不意のことで欠席となり残念だった。餅作り、餅つき、雑煮作りでは、全スタッフが協力して分担して実施することができ、成功することができた。けん玉講師の不意の欠席の穴も当所のスタッフで協力して埋めるなど当所にとってもよい財産になったと思う。

4 成果



「総決算」「新たなスタート」「前向き」をテーマに実施した。振り返りやねらいに迫る方法、プログラムをより練っていく必要は感じたが、正月に関する活動を色々盛り込むことができた。事後の振り返りからも「活動が楽しかった」「仲間との協力していくことが大切」「チャレンジ」「中学校で〇〇を頑張る」などと今後に向けて前向きなことを回答する参加者も多くいてある程度ねらいに迫ることができた。ネイチャー福笑い、人間福笑い、餅つき、餅作りなど普段出来ない体験を提供でき、思い出に残る貴重な体験になった。体験学習としても有意義だったと考えられる。

「かわいい子には旅をさせよう！」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・自然の中で思いきり活動することで自然に親しむ心を育む。
- ・保護者のもとを離れた宿泊体験活動をすることで、自主・自立の精神を養ったり、基本的な生活習慣を育んだりする。

2 事業の概要

- (1) 開催日 1回目 11月22日(土)～23日(日)
2回目 12月6日(土)～7日(日)
対 象 小学1・2年生
- (2) 参加者 1回目19名・2回目21名(合計40名)
- (3) 内容

- ① 大判絵本の読み聞かせ・材料探しの旅
- ② 「ぐりとぐら」のカステラづくり
- ③ 葉っぱでスタンプアート
- ④ カレーうどん炊飯
- ⑤ 寝る前・退所前の読み聞かせ(協力者・職員)
- ⑥ お掃除タイム
- ⑦ 冒険の森探検



3 事業の特色

当所の主催事業の中でも、保護者の関心が高く応募人数が多いのが、この「かわいい子には旅をさせよう！」である。小学1・2年生の子どもたちにとって、親元を離れ、初めて出会う人たちと一緒に活動したり宿泊したりすることは、まさに大冒険となる。そこで、子どもたちが登場人物に自分自身を投影したり、物語の世界に没入したりして、2日間を頑張りきることができるように、絵本を軸に体験活動を構成した。また、本事業を通して「一人でもできた！」と自信をつけ、日常生活に戻ってもその自信が子どもたちを支えてくれるものとなるように意識し、企画・運営を行った。合言葉は「一人でできるよ、がんばるもん」。各活動を行う際には、この合言葉を唱えさせ、大人に頼らなくても自分でやろうとする態度を見守り、その場で価値づけをすることを大切にして、子どもたちと関わった。

4 成果

退所の際には、2日間での人間関係が築けた様子が見られた。子どもたちが他の子どもやボランティアの学生、職員と名残惜しそうにお別れする様子が印象的だった。

事後の保護者アンケートでは、「自ら柿を切って皿に盛り、食べていたので驚きました。」「いつもは家族全員で寝ていますが、帰宅したその日から『一人で部屋で寝る!』とのことで、成長を感じました。」「『一人で泊まった』、『知らない子と友達になれた』ということが小さな自信にもなったように思います。誇らしげな顔をしていました。」等の言葉をいただいた。安心して預けられると感じていただけたこと、親子で満足していただけたことが窺え、体験活動の成果があったと言える。

「わくわくどきどきスプリング」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 自然体験活動、宿泊体験活動による親子の絆づくりの場を提供する。
- ・ 福祉部局と連携し、県の施策の情報提供の場とする。

2 事業の概要 【予定】

- (1) 開催日 3月7日(土)～8日(日)
- (2) 参加者 島根県内ひとり親家庭の親子 20組
(子どもは安全面を考慮して年中～小学6年生、中学生)
- (3) 連携機関 県青少年家庭課 ひとり親支援係
- (4) 内容
 - ① 入所のつどい、オリエンテーション
 - ② 仲良くなるゲーム
 - ③ 親：ほっとひとときおしゃべりタイム
子：みんなで遊ぼう！わくわくタイム
 - ④ アスレチックに挑戦！「冒険の森」
 - ⑤ みんなでほっこり「灯火タイム(光の芸術)」
 - ⑥ みんなで楽しむ「窯焼きピザ作り」
 - ⑦ 親子で贈り物タイム「創作活動」



3 事業の特色

「青少年社会教育施設での野外体験(キャンプ・バーベキュー等)活動機会の充実」の一つとしてはじまった、ひとり親家庭の親子を対象とした事業で、今年度で4回目となる。県の青少年家庭課ひとり親支援係に事前の広報や当日の情報提供の協力を得る。

プログラムには、親子で楽しめる体験活動だけではなく、親同士の対話やつながりづくりを目的としたワークショップ「ほっとひとときおしゃべりタイム」を設ける。

4 成果(R6年度)

昨年度に引き続き、親同士で対話をする時間を取り入れた。その結果、アンケートでは、「子育て中の悩みや共感できる話をする事ができてよかった。」「行政サービスについて、住んでいる所で受けられるサービスが違い、いろいろと情報交換ができた。驚くことも多かった。」等のご感想をいただいた。悩みの共有から有益な情報交換まで様々な話ができおり、「ほっとひとときおしゃべりタイム」が、参加者にとって貴重な時間となっていることが分かった。

また、「子ども主体でとやえど、親が手を出すことになるイベントも多いが、子ども第一で活動を促していただけてとても良い体験ができた。」「母から離れ、子ども同士で準備、片付けなどできていてよい姿を見る事ができた。」等のご感想から、親同士だけでなく、子同士、親子同士での交流も多く生まれたこと、子どもたちの良いところを再発見する機会につながったことがうかがえる。

親子でメッセージを交換し合う際や退所のつどい後の参加者同士の離れがたい様子が大変感動的で、非常に印象に残っている。本事業のねらいが達成できたといえる。

「ボランティアスタッフ養成講座」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ボランティア活動に興味のある小中学生を対象に、ボランティアの意欲やスキルを高める。
- ・参加者どうしのつながりを深める。
- ・相手の気持ちを汲み取ることの大切さについて考える。

2 事業の概要

- (1) 開催日 2月7日(土)～8日(日)
- (2) 対象 小学校5年～中学校3年生
- (3) 参加者 10名(小学生6名、中学生4名)
- (4) 日程



1日目(2月7日:土曜日)	2日目(2月8日:日曜日)
10:00 入所のつどい	7:00 朝のつどい
10:45 そもそもボランティアって…?	9:15 G.G.G(Gotsu Groupwork Game)
13:00 先輩イモームズから学ぼう!	13:00 2日間を振り返って・これからの自分
14:00 相手の気持ちを汲み取るワークショップ	13:45 保護者の方へ -イモームズって?-
16:00 アイスブレイク入門	14:00 退所のつどい
19:00 キャンドルのつどい・各班工夫のゲーム実施	
20:45 1日目を振り返って	

3 事業の特色

本事業は、当所の主催事業に過去に参加した児童・生徒を中心に募集をする事業である。参加者の多くは、これまでの主催事業で少年自然の家ボランティアスタッフ「イモームズ」の働きを一番近くで見えており、「自分もイモームズのようにになりたい!」と憧れを抱き参加する子どもたちである。ボランティアとはどのようなものかを知り、自分自身が今後どのように関わっていきたいのか考えることを通して、「相手の気持ちを汲み取ることの大切さ」について考えるきっかけになるように、活動を構成していった。はじめに、ボランティアとはどのようなものか理解を深め、自分自身について見つめるための時間を設けた。先輩イモームズである県立大学の学生から話を聞く場面も設定した。ワークショップを通して「相手の気持ちを汲み取ることの大切さ」について学んだ後、グループごとに効果的なアイスブレイクゲームを考える時間を設定し、夜の「キャンドルのつどい」の中でそれらのゲームを実際に体験し合った。最後の活動は「G.G.G」で、ボランティアスタッフとして関わる視点、様々な子どもたちの気持ちを汲みながら支援する視点を意識しながら活動できるよう働きかけた。

4 成果

事後アンケートでは、参加者全員が趣旨・ねらいを「達成できた」「やや達成できた」と回答しており、各活動に積極的に関わり、前向きに捉えてくれたと感じている。「他の人がやってくれるからとかではなく、自分からなぜ動かないといけないのかがわかった。そういった意識をもって動きたいです。」
「今回知ったこと、気づいたことを活かして生活していきたいと思った。自分は今、委員会の副委員長だから、アイスブレイク入門で学んだことを意識して進行とかしていけたらいいなと思った。」以上のような建設的なコメントも多々あった。将来のボランティアスタッフ・イモームズの養成が主たる目的ではあったが、今回の学びをぜひ身近な学校生活等においても活かしてほしいと願っている。

「わくわく外遊びデー」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

どんぐりの谷や冒険の森、体育館等を開放し、自然体験や体力向上の機会を提供するとともに、広く施設の利用促進を図る。併せて、家族の触れ合いを深め、自然のよさを感じる機会とする。

2 事業の概要

(1) 開催日 毎月1回(日曜日)日帰りで開催。10時～15時30分

(2) 対象 誰でも参加可能

(3) 内容 どんぐりの谷遊び、ソロ炊飯(2回)、冒険の森、体育館活動、
月替わりのわくわく企画



(4) 周知方法: チラシ配布(前半と後半に分けて2回)。HPやLINE、インスタグラムでも情報発信。

(5) 参加人数

開催日	参加人数	イベント	参加者の区分(割合の多いもの)
4月27日	133	山菜てんぷら	・成人 45.8%
5月25日	68	ミニピザ作り	・小学生 30.3%
6月29日	66	まき作り	・幼児 21.6%
7月27日	80	水でっぼう作り	・中学生 1.1%
8月 別の主催事業開催のため開催なし			12月まで
9月28日	73	葉っぱでスタンプ	参加者の住所(割合の多いもの)
10月26日	—	オープンデーとして開催 —	・浜田市 47.7%
11月30日	100	森の中で木の実さがし	・江津市 18.3%
12月14日	21	たき火で焼きいも	・大田市 9.8%
1月25日	16	たき火で竹ごはん	・出雲市 6.5%
2月22日	—	ピザ窯で窯焼きピザ	・邑南町 5.2%
3月22日	—	森の中で春さがし	12月まで
	合計557		

3 事業の特色

毎月の開催で、事前予約を必要としない自由参加の事業である。どんぐりの谷では、ブランコ、そり遊び、ターザンロープ等の手作り遊具を設置し、スタッフが安全を見守る中で、参加者は思い思いに遊ぶことができる。また、土鍋を使った炊飯活動を1日2回実施し、親子で楽しむ機会を提供している。月ごとの「わくわく企画」、体育館無料開放、冒険の森も楽しむことができる。



4 成果

未就学児や小学校低学年を中心に、親子で過ごす休日の憩いの場となっている。来場者は、県内東西の様々な地域、また県外にも及び、多くの人に広がりつつある事業である。リピーターも多く、毎月来られる家族もある。「今月のわくわく企画を楽しみに来ました。」という声も多数いただく。施設遊具や活動を通して、家族の絆を深め、子どもの成長を感じて喜びを共にする家族の場となっている。



コロナ禍対策もあって毎月実施してきたが、社会経済活動も平時に戻り、当施設の入所団体数も回復してきた。一定の役割は果たし得たと感じており、次年度は四季に1回など、精選を検討している。

「その他の活動」

1 地域の体験活動支援事業

(1) 趣旨

- 地域における教育資源を生かした体験活動の普及啓発を図る。
- 子どもたちが、地元の人や自然と深く関わり、ふるさとへの愛着や貢献意識、実行力を高めるために、公民館等が学校や地域住民などの協力を得て行う宿泊や日帰りの体験活動を支援し、地域づくりを担う人づくり推進の一助とする。

(2) 今年度の取組

日にち	依頼者	支援内容	支援した場所
6月13日	益田市教育委員会	体験活動や常時活動における安全管理研修を通し、子どもを中心とした活動の充実と安心安全の場づくり 〔参加者〕放課後子ども教室スタッフ17名 〔派遣職員〕2名	益田市 市民学習センター
9月26日	島根県立江津清和養護学校	2030年開催の「全国障害者スポーツ大会（島根かみあり全スポ）」への興味・関心を高めるとともに、障害者スポーツ（車いすバスケットボール）を体験することで、多様性への理解と共感を深める 〔参加者〕同校高等部生徒・教職員15名 〔派遣職員〕1名	島根県立江津清和養護学校体育館

2 出前研修

小学校や児童クラブ、まちづくりセンターに依頼され、創作活動、グループワークゲーム、テント設営等の研修を計5回行った。

3 島根県三青少年教育施設連絡協議会（主催 島根県立少年自然の家）

〔日時〕令和8年1月26日（月）～1月27日（火） 〔場所〕島根県立少年自然の家
〔内容〕情報共有・安全管理研修・新規プログラム「ピザ窯でピザづくり」の実演等

4 広報活動

- (1) ホームページ、ブログ、LINE、インスタグラムを活用した情報発信
 - LINE 登録者数 1,079人（令和8年1月末日現在）
 - インスタグラムフォロワー数 568人（令和8年1月末日現在）
- (2) チラシ配布による情報発信
 - 9つの主催事業でチラシを作成し、小学校・幼稚園・保育所等を通して各家庭へ配布
- (3) 出展による情報発信
 - 2/14-15 イオンモール出雲にて、サン・レイクと合同で体験ブースを出展
- (4) 県政重点広報項目に、開所50周年記念オープンデーの開催が取り上げられたことによる情報発信
 - 石見ケーブルビジョンの告知番組に全職員出演
 - 10/24 BSS ラジオ「今ね！しまね推し♪」に土江美来社会教育主事が生放送出演
 - 「しまねの社会教育だより」9月・41号（東部・西部社会教育研修センター発行）に、特別企画特集として巻頭4ページにわたって紹介

令和 7 年度施設設備・修繕報告

令和 8 年 1 月末現在

1 管理・宿泊棟関係

- ・【工事】ウッドデッキ撤去工事（長寿命化工事） R 7～8 （※）
- ・【更新】宿泊棟（土星棟）冷水器更新工事
- ・【修繕】管理棟事務室空調管理システム修繕 （※）
- ・【修繕】金星棟・火星棟男子便所自動フラッシュバルブ（洗浄弁）取替工事
（※）
- ・【修繕】自動火災報知設備修繕

2 野外施設

- ・【工事】冒険の森木製遊具更新・改修工事
「原野からのとんぼ返り」 撤去及び新たな遊具を設置
「出雲の国やしろ」 手すり設置
- ・【工事】活動センター屋根修繕工事（長寿命化工事） R 7～8 （※）
- ・【新設】ケビン棟（こぐま座）エアコン新設工事
- ・【新設】第 2 炊飯場ピザ窯新設
- ・【修繕】研修棟ガラス補修
- ・【修繕】外灯修繕工事

3 設備

- ・【工事】体育館の天井照明落下防止対策・LED化工事 （※）
※ 体育館での工事に伴い、令和 8 年 1 月 1 日～ 2 月 28 日（予定）
- ・【修繕】管理棟前坂道舗装工事 （※）
- ・【修繕】浴室シャワー水栓取替工事
- ・【修繕】リネン室 P o E ハブ修繕
- ・【修繕】厨房天井補修工事
- ・【修繕】電話設備修繕
- ・【修繕】創作棟漏水補修工事
- ・【修繕】宿泊棟（地球棟）浴槽水栓取替工事
- ・【修繕】創作棟準備室スポット型感知器取替工事

その他軽微な修繕

※については、現在準備中

令和 8 年度施設設備・修繕予定

1 管理・宿泊棟関係

- ・【工事】ウッドデッキ撤去工事（長寿命化工事） ※R 7～8・・・継続



2 野外施設

- ・【工事】活動センター屋根修繕工事（長寿命化工事） ※R 7～8・・・継続



3 設備

- ・【工事】全館LED化工事

令和8年度 実施予定主催事業概要一覧

島根県立少年自然の家

No.	事業名	予定期日	対象	定員	内容
1	利用団体指導者研修会 (前期)	4/23(木)	4月～8月31日入所予定 団体担当者	40名	宿泊活動の事前研修、プログラムの作成
2	第1回運営委員会	6/26(金)	運営委員13名	-	今年度事業計画、経営方針等協議
3	チャレンジ・ザ・サマー	7/4(土)～5(日)	小学生とその保護者	20組	家族の交流を深めるための夏のお手軽キャンプ(ケビン棟も利用)
4	利用団体指導者研修会 (後期)	7/23(木)	9月1日～3月31日入所 予定団体担当者	40名	宿泊活動の事前研修、プログラムの作成
5	ジュニア・サマー・ キャンプ	8/19(水)～23(日)	小学5・6年生	24名	非日常体験での気づきをもとにした新たな自分の発見・追求、人間関係づくりをめざした長期宿泊体験活動
6	エンジョイ!アウトドア	9/11(金)	西部地区教育支援センター 他	-	炊飯や冒険の森を楽しむ野外体験活動
7	子ども探検隊	9/19(土)～20(日)	小学3・4年生	24名	探検的要素を盛り込んだ自然体験活動
8	オープンデー	10/25(日)	誰でも(高校生以下は 保護者同伴)	-	施設開放による体験活動(野外活動、創作活動、各団体・個人ブース)
9	森と海のつどい	11/7(土)～8(日)	小学4～6年生と その保護者	12組	自然の家とアクアスでの体験活動
10	かわいい子には旅をさせよう!	①11/21(土)～22(日) ②12/5(土)～6(日)	小学1・2年生	40名 (各回 20名)	自主・自立の精神を養うための自然遊びや集団宿泊体験活動
11	ボランティアスタッフ 養成講座	2/6(土)～7(日)	小学5・6年生 中学1・2年生 (過去主催事業参加者)	30名	ボランティアの意欲やスキルを高める体験活動
12	第2回運営委員会	2/19(金)	運営委員13名	-	今年度事業報告、施設整備・修繕報告、今年度の課題協議
13	わくわくほっこりスプリング	3/6(土)～7(日)	ひとり親家庭	20家族	自然体験、宿泊体験活動による親子の絆づくり
14	わくわく外遊びデー	年3回開催 (5・7・2月の日曜日)	誰でも(高校生以下は 保護者同伴)	-	施設を開放し、外遊びや自然遊びを楽しむ家族の体験活動

令和8年度入所予定（団体分類別）

令和8年2月9日現在

入所月 団体分類		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
学校	幼稚園・ 保育所		2	1				1						4
	小学校		6	15	1		7	18	6	1				54
	中学校													
	高等学校	3	1	2			1							7
	大学等													
	特別支援 学校		1	1				2						4
	各種学校		1											1
	小計													
社会教育							1			1		1		3
社会生活		1		1	4			2			1			9
企業														
個人			2											2
視察														
計		4	13	20	5	0	9	23	6	2	1	1	0	84

※月をまたいでの入所は前月にカウント

島根県立少年自然の家 使用料金表

1 改定日 令和8年4月1日

2 経過措置 利用日が令和8年4月1日以降であっても、令和8年3月31日までに使用許可を受けている場合は改定前の料金で利用できます。

3 使用料

(1) 宿泊使用の場合

区分		改定後の使用料		改定前の使用料	
下記以外の方	県内者	1人1泊につき	1,160円	1人1泊につき	1,060円
	県外者	1人1泊につき	1,760円	1人1泊につき	1,600円
高校生以下の方		無料（シーツ代160円が必要）/回			

【使用料の減免について】

障害者手帳、療育手帳等の交付を受けている方は、事前の申請をすると使用料が半額となります。
また、その介助者（引率職員は介助者とはならない）は無料（ただし、シーツ代160円が必要）となります。

(2) 宿泊使用以外の場合

【少年自然の家】

区分	改定後の使用料						改定前の使用料					
	9:00~ 12:00	13:00~ 17:00	18:00~ 22:00	9:00~ 17:00	13:00~ 22:00	9:00~ 22:00	9:00~ 12:00	13:00~ 17:00	18:00~ 22:00	9:00~ 17:00	13:00~ 22:00	9:00~ 22:00
第1研修室	1,490円	2,010円	2,010円	3,500円	4,020円	5,510円	1,360円	1,830円	1,830円	3,190円	3,660円	5,020円
第2研修室	960円	1,300円	1,300円	2,260円	2,600円	3,560円	880円	1,190円	1,190円	2,070円	2,380円	3,260円
第3研修室	420円	570円	570円	990円	1,140円	1,560円	390円	520円	520円	910円	1,040円	1,430円
体育館 ※1	1時間につき 1,390円						1時間につき 1,270円					

区分	改定後の使用料			改定前の使用料		
	9:00~ 12:00	13:00~ 17:00	9:00~ 17:00	9:00~ 12:00	13:00~ 17:00	9:00~ 17:00
第2ホール	1,380円	1,850円	3,230円	1,260円	1,690円	2,950円
創作室	1,040円	1,400円	2,440円	950円	1,280円	2,230円
第4研修室、第5研修室	680円	910円	1,590円	620円	830円	1,450円
水星棟、金星棟、火星棟、木星棟、土星棟	3,150円	4,230円	7,380円	2,870円	3,850円	6,720円
地球棟	900円	1,230円	2,130円	820円	1,120円	1,940円

※1 体育館の半面を使用する時の金額は表の料金の5割に相当する金額となります。（10円未満の端数がある時は端数切捨て）

誰もが、誰かの、 たからもの。

どんなに時代が変わっても、受け継いでいきたい
それは、人のつながり、あたたかさ

さりげないけど、ほっとかない
互いの顔が見える、人間味あふれる関わりが心地いい

今を見つめ、未来に想いをはせる
そんな心を、ときに優しくつつみ、ときにそっと背中を押す

大切に育んできた“つながる力”は、
自分のサイズで、一生懸命生きる人を応援してくれる
未来への原動力

人が人のたからもの
誰もが誰かの応援団

いいけん、 島根県

Q いいけん 島根県
<https://www.iizen.com.jp/iknshimane/ken/>

